

大阪府保育士会だより

平成17年8月1日

第70号

ほほえみ

大阪府社会福祉協議会
保育部会・保育士会
大阪市中央区中寺1-1-54
TEL 06-6762-9001

虫もお仲間



=神社の
清掃=

八尾市 さくら保育園



5歳児の子どもたちで、
毎月一回近くの神社へ清掃

ゴミ袋を持って「草引き・
落ち葉拾い・石拾い」と自
分たちで考えて掃除をしま
す。途中、かえるやダンゴ
虫が出てきて大喜び！
地域の人たちに「とても
きれいになったね！」と声
を掛けられて「また来ます
！」と返す子どもたち。
これからも子どもたちと
共に、地域に役立つよう続
けていきたいと思えます。



地域とつきあ い大切だ



堺ブロック
河内ブロック

に行きます。

園児いきいき

=園庭開放=



堺市 あすか保育園

当園では、地域活動とし
て、月4回の園庭開放と、
ふれあいサロン・体操教室
を月1回ずつ行なっていま
す。
園庭開放は、毎回十数組
の親子が参加していますが
絵本・紙芝居に興味を示す
子どもたちの瞳はキラキラ
輝いています。お母さんた
ちは、育児の悩みを相談し
たり、参加者同士いろいろな
情報を交換したりされて
います。
雑誌やメディアからでな



く、人との触れ合いから得
ることが出来る良い時間を
これからも提供していきたく
いものです。

保育園は ヒントがいっぱい!!

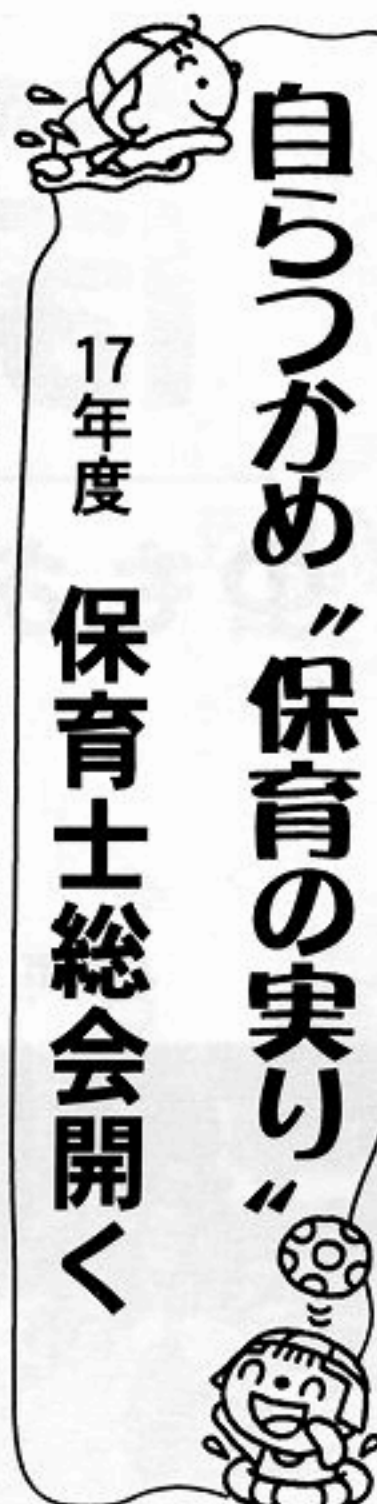
毎月2回開催している
「ひまわりクラブ」では地
域の親子を迎え、スライム
や新聞紙などで大胆に遊ん
だり、七夕飾りやクリスマス
ツリーなど季節を感じら
れるものを作り、その後には
園庭で自由に遊んでもらっ
ています。

子育て支援シリーズ⑬ 河内長野市 柳風台保育園



「家でもやっ
てみます」と
いう声も聞か
れ、子どもた
ちの様子を見
ながら、お母
さん同士も日々
の子育てにつ
いて話をした
り、園の子ど
もたちの遊びや給食の様子
を見てもらっています。
子どもと一緒に遊んだり、
園の様子を見てもらい、子
育てを楽しむ方法を見つけ
てもらえたらと思います。
また、一昨年から「保育
園体験」として、親子で同
年齢の園児と遊びだけでな
く、給食や排泄なども一緒
にし、一日を過ごしてもらっ
ています。

7月から新しく「くまざ
んクラブ」として地域のお
父さん方に親子で参加して
いただけるよう、土曜日に
開催しています。男性の育
児参加支援というわけです。
萱村真由美(主任保育士)



自らつがめ「保育の実り」

17年度 保育士総会開く



平成17年度 府保育士会

育部会長、大阪府社協葭矢 張って下さい」と話されま
忠常務理事から「少子化問 した。
題が深刻化する中で子育て その後、16年度事業報告、
支援という保育士の役割が 17年度事業計画案と収支予
増えましたが、大阪の素晴 算案が承認され、新常任委
らしい伝統の力を発揮し頑 員の紹介も行われました。

喜びの共有が大切

記念講演 幼少期の導き方



平成17年度保育士会総会 が、4月27日に社会福祉指
導センターにて開催されま
した。(参加者215人)
はじめに、武内茂子会長
から、「保育士が国家資格
としてスタートし、周囲の
意識も高まっています。保
育士自らが意欲をもって研
修に参加することによって、
自分の実りにして下さい」

第2部では、川崎医療福 少期に十分な満足できる喜
祉大学・佐々木正美教授が びの共有ができていなかっ
「不登校にみる幼少期の背 た可能性が高い、というこ
景、保育士のかかわり方」 とでした。
をテーマに講演されました。
自らがこれまでに出会っ
た親と子どもの相談、研究
の様々な事例をあげて話さ
れました。

若者の時代は自分探しの
時代だが、現代の若者の多
くは自分探しができず苦し
んでいる、自分のできるこ
と、できないことのギャツ
プを感じてしまう。この状
態が続くと、不登校・ひき
こもりになりやすい。なぜ
なのかというそれは、幼

との挨拶がありました。次
に大阪府健康福祉部児童家
庭室の飯尾慎太郎室長が、
昨今の児童虐待に触れられ、
「子ども未来プラン作成に
あたり、行政と保育士が他
機関と協力し合うことが大
切です」と挨拶されました。
主催者側から高岡國士保

保育士が、大阪府社協葭矢
張って下さい」と話されま
した。
その後、16年度事業報告、
17年度事業計画案と収支予
算案が承認され、新常任委
員の紹介も行われました。



の状態も失っていることが
多い。喜びと悲しみは、人
と分かち合って発達するも
ので、うまれながらに持つ
ているものではなく、育て
ていくものである、とのこ
とでした。大人になってか
らだと難しいことも多いの
で、子どもの時代にこそ、
自分ほかわいがられている
という喜びの経験を多くも
ち、そして親・保育士も一

緒に喜びを感じることがで
きたら最高です。子どもを
抱きしめてあげて下さい。
と締めくくられました。
子どもを守り育てていく
保育士として、今、子ども
たちに何ができるかを考え、
最善を尽くして子どもたち
の保育にあたりたい。今回
の講演は、自分の保育を見
つめ直すよい機会となった
と思います。

と。相手にきちんと伝える
技術をもち、相手の気持ち
をくんで話をすることがで
きるように、人間性を深め
倫理綱領を基に実践してい
く必要性を力説されました。
今、総合施設の今後の動
向が注目されているが、養
護と教育の一体化した中で
子育てするのが保育所。二
ズに比べ保育所は十分機能
を果たしている。何にで
も即答しますよと胸を張っ
ていえる保育士になっても
らいたい。そして、最後に、
福祉職として社会、地域へ
の貢献の意識を持ち、地域
の人が今何を必要としてい
るか、相手の必要としてい
ることを見極める目を養う
ことが専門性である。

対応能力の向上を “専門職への道”で研修



いる親子に手をさしのべ、
一緒に子育てしていくこと
ができる。そんな福祉的精
神を持って子育ての社会化
を進めていくことを保育士
は担っていると述べられま
した。
「専門職」とはどこにい
ても専門性を発揮できるこ

喜びを共有し合うことが
何よりも大切で、それによっ
て本当の喜び・共感・情緒
の発達が成し遂げられる。
不登校、ひきこもりの状態
は喜びだけでなく、悲しみ
して」。地域社会のつな
がりが希薄化し孤立化する
親子、子ども同士の関わり
の中から学ぶ「生きる力」
の欠如。このような現代社
会で育児の簡素化、依存化
が進む中、「子育ては、手
間暇かけて楽しい」という
ことをどう親に伝えていけ

「専門職」とはどこにい
ても専門性を発揮できるこ
とをどう親に伝えていけ



保育士の学びシリーズ①



大阪府立大学(社会事業短期大学)

待井和江名誉教授

今、関心があるのは、総合施設の動向ではないでしょうか。総合施設は平成17年は試行事業として36か所が先行実施しています。その実施内容・経過・成果を検討し、具

視」の姿勢であり、「幼児教育は幼稚園」という立場です。つまり、現在の幼稚園に保育所的機能を付加し、保育サービスを提供するタイプの顕在化です。その過程では、「保育所は教育に

「保育」という語が、その本質を表すとされていることが注目されます。保育所において「教育」という語

保育士手帳「ほほえみ」の30ページ、本文5行目の「外出前に……注意事項をメモに書いて渡すなど」手

総合施設と保育所

「教育とは何をいうのか」を明確化することが根本の課題です。保育所保育指針は「養護と教育」の一本化を基本理念とし、豊かな人間性を持った子どもの育成を目指しています。国際レベルでも就学前においては「教育」より

は、生活全般の乱れや不安が浮き彫りになってきました。例えば、テレビがつけっぱなしの家族が非常に多い。夕食までの間、量も決めず

大阪の保育はもちろん、全国の保育を常にリードされている待井先生ですが、最近はお講演いただく機会がなくなっておりまして。そこで、先生の現在の保育に対する熱い想いを、3回シリーズでお届けすることになりました。この紙面を学びの場としてご活用ください。

「弱い」さらには「保育所には教育がない」という声さえ聞かれ、激しい反発と動揺があったことも事実です。就学前乳幼児にとつて、

が公的に用いられたのは、昭和40年刊行の第一次保育所保育指針が初めてとされており、幼稚園に比べて幼児教育の歴史は浅いといえます。しかし、0歳から就

第5分科会で発表される 佐藤春子さん



主テーマは「子育て支援」

神戸で 近畿ブロック保育研究集会

近畿ブロック保育研究集会が7月14日、15日の2日間、ホテルオークラ神戸で開催され、全体会と8つの分科会がもたれました。第一日目の全体会では、

阪神大震災後の10年間の復 大阪府保育士会からは、

のよう発表されました。 佐藤さんが発題 南海愛児園では核家族が大部分を占め、食生活の偏りから肥満・偏食・早食いかめない・自分で食べよう



意すればよいかわからない、野菜嫌いな子どもに対する保護者の不安が多い、などの家庭状況がわかりました。このアンケートを踏まえ、子どもの生活をより良いものにするために保育園

◆お願い◆

落ちのないように「連絡を密にしましょう」と訂正して下さい。

たのしい保育活動

ふれあいの中で 広がる心



当園では、緑の木々に囲まれた自然豊かな環境の中で、子どもたちがいきいきと活動に取り組んでいます。

また、月に一度、近くの遊びを通じ身近な人と関わりを持つ中で、感性の豊かさや、人を思いやる優しさを育むことを目標にしています。

子どもたちの知らないことがたくさんあり、みんな目を輝かせ楽しそうです。

また、月に一度、近くの老人ホームを訪問し、一緒にゲームをしたり、歌をうたったりします。7月には七夕の集い、8月スイカ割り、9月ミニ運動会、10月おひも掘りとハロウィンパーティー、

11月焼きいも大会、12月クリスマス会、2月発表会と、季節に合わせた行事も一緒に楽しんでいます。

最近では、核家族化にともなう、身近な人が子どもたちの周りから減ってきています。そんな子どもたちには、

当園の園児たちは、中学校の校庭を毎朝ランニングしています。

災害対策の一ツとして、中学校が災害避難場所ということもあり、

生活の中でいざという時にも対応出来るようにと避難経路をランニングコースにしました。

小さな子どもたちが大きな学校庭に足をしっかりとつけ元気よく一周回っていますが、これも受け入れて下さった中学校のおかげと感謝しています。

地域性を生かし、園近くの老人会の方々に年1回のおもちつき会に来ていただきます。

おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。

子どもたちも、おもちのつき方や丸め方、また、昔の歌や遊び、おじいさん、おばあさんが子どもだった頃の話などを聞いています。



子どもたちと一緒に新聞を読んでいる様子。

保育あんな工夫、こんな工夫

ランニングも災害対策！

今日もランニング・トレニングに励んでいます。



園児たちが朝ランニングを楽しんでいる様子。

韓国から大学生見学団

そんな中、6月3日には、韓国の羅州大学福祉科の学生28人が見学にみえました。



韓国からの大学生見学団と園児たちの写真。

編集後記



梅雨明けと同時に一気に泣き出した蝉の声、園庭では、水遊びを楽しみむ子どもたちの元気な声が響き渡り、楽しい夏の訪れを感じさせます。

4月のJR福知山線の大惨事をはじめ、梅雨の被害やイギリスでの同時多発テロなど、また夏休みに入ってから子どもに関わる事故も多く、心を痛める昨今です。

子どもたちは親の愛情を受け地域の人々から見守られ養育されなければなりません。子どもたちが未来に夢と希望を持って、安心して成長できる社会作りのためネットワークを強化する必要があります。

最後に犠牲者のご冥福を心からお祈り申し上げます。

